

タブレットを正しく使える学校へ

1 きっかけ

1人1台のタブレットが支給されてとても便利になったが、とても残念なことに授業中などにこっそりとタブレットで授業には関係ないこと（検査・動画視聴など）をしている人たちも中にはいる。そして周囲の人にとっても迷惑をかけてしまっている。せっかく支給されたタブレットを正しく使えば大平西小学校はもっとすてきな学校になるとおもう。そこで、私たちのグループではこの問題を解決するために2つの提案をする。

2 提案

(1) 学年に応じた情報モラルに関する動画の視聴

現状として、休み時間などに、勝手に友達の写真をとっていることがある。そこで、業間の時間にクラスごとで、「個人情報世界に流出したらどんなことが起きるのか。」と、いった動画を見ることを提案する。その動画は、学年の実態にあった動画（低学年は、簡単なもの・上学年は少し難しいもの）を見る。そうすることで、タブレットの正しい使い方を繰り返し学び、みんなの意識も変わると考える。

(2) タブレットを自由に使ってよい時間を作る

現状として、タブレットに関心があり、自由に使ってはいけないときに我慢できずに使っている人がいる。そこで、クラスごとにタブレットを自由に使ってもよい時間を作ることを提案する。そうすることで、満足感が得られて、授業でタブレットを使う時と、自由な時間とのメリハリができると考える。

3 まとめ

このように、みんながタブレットを正しく、そして有効に使うためには、ルールをきちんと守ることは絶対に必要だ。そして、今は様々な機能があるので、楽しみながら使う時間があってもよいと思う。せっかく一人一台のタブレットが支給されたので、みんなが気持ちよく使えるようにしていこうではありませんか。

あいさつあふれる学校へ

1 きっかけ

校長先生が「あいさつをしましょう。」といつもお話されています。しかし、実際は、様々な理由から積極的にあいさつができていません。上級生にアンケートをとったところ、あいさつへの課題を多くの人が感じていることが分かりました。そこで、大平西小学校をあいさつあふれる学校にするためには、どうしたらいいのかを考えて、2つの提案をしたいと思います。

2 提案

(1) 動画を活用してあいさつの啓発

現状として、今西小の児童は、あいさつをする必要性を感じていない人が多いです。そこで、上級生が委員会活動などを活用してあいさつの有無による比較動画を作成し、全校生に視聴してもらうことを提案します。比較動画を作成することによって挨拶の有無による違いや必要性を感じ取って、あいさつを積極的にするようになると考えます。

(2) 自治会ごとに一斉下校のあいさつ当番の実施

現状として、今はあいさつをしないでそのまま通り過ぎて行ってしまう人がいます。また恥ずかしくて大きな声であいさつができない人もいます。そこで、水曜日の一斉下校の際に、自治会ごとにみんなの前であいさつをする当番を決めることを提案します。自治会ごとのあいさつ当番を行うことによって、あいさつの機会が増え、自信をもって大きな声であいさつをすることができるようになると考えます。

3 まとめ

このように、みんながあいさつへの意識を高めるには、みんなであいさつについて考えたり、実際にあいさつをしたりすることが必要である。大平西小がこれからも、あいさつがあふれる学校であるために、一人一人があいさつに積極的に取り組んでいこうではありませんか。

公共物を大切に扱える学校へ

1 きっかけ

児童指導主任の先生が放送で「学校のもの壊れています。一人一人がみんなの物を大切に意識を持ちましょう。」とおっしゃっていた。最近学校の物などがいたずらされることがあり、確かにそうだと思った。上級生に西小の課題についてアンケートをとってみると、想像以上に公共物について問題だと思っている人が多かった。以上のことから、公共物の扱いの現状を解決する次の2つを提案する。

(1) ポスターの掲示

現状として学校のもの壊されたり、いたずらされる所がある。壊しても悪気がない人や、学校のことを大切に思っていない人がいることから起こっているだろう。そこで、人目にあまりふれないいたずらされやすい所にポスターを貼ることを提案する。具体的には次のような内容にしたい。

- ・公共物は税金で提供されている皆のものということを伝える内容
- ・「大切にしよう」などといたずらを止めるような内容

こうすることで、公共物への意識が高まる。それによって、公共物へのいたずら等が減ると考えられる。

(2) スライドショーを作成・配信し家庭でも話し合う機会を作る

現状として、公共物について学校で話があっても時間がたつと徐々に忘れてしまっている。そこで、タブレット端末を利用して、スライドショーを作ってチームズにあげることを提案する。具体的には、次のような内容にしたい。チームズで自共有することで、学校だけではなく家庭で視聴してもらい、親子で話し合うことも可能である。

- ・公共物に関するクイズ
- ・「話し合ってみよう」などという話題提示を含む内容

こうすることで家に帰っても公共物の話題が挙がり、親子で話をすることでさらに関心が高まる。それによって、公共物が壊れたりすることが減る効果が期待できる。

3 まとめ

このように、現状を打破していくためには一人一人が公共物への意識を高める必要がある。公共物を大切に扱える学校にしていくためにも皆が公共物への意識を高めて公共物を大切に扱える学校にしていきませんか。

いろいろな友達と進んでかかわる 素敵な西小へ

1 きっかけ

いじめがいけないことだということは、誰もが感じているし、いじめを見たり聞いたりしてよい気持ちになる人はいないと思います。いろいろな人がいじめゼロについて呼びかけています。でも現状として、いじめがなくなっていないといえます。上級生にアンケートをとったところ、友達とのかかわりについて課題と感じている人が多くいました。そこで、私たちは、2つの提案をしたいと考えました。

2 提案

(1)紙芝居を作成しての呼びかけを行う

現状として友達とのかかわりの中で、そんなつもりはなくても相手が傷つく言葉を言ったり、陰で友達の悪口を言うてしまうことがあると思います。そこで、いじめにつながるようなことを防ぐ呼びかけをすることを提案します。具体的には次のような内容です。

- ・紙芝居を作って、みんなに、陰口やからかい、内緒話をなくそうということと呼びかける。
- ・ポスターを描いて廊下などに貼って呼びかけをする。
- ・みんなでいじめがないか一か月に一回、話し合いをする。

こうすることで、自分たちの行動や言葉づかいを見直すことができ、仲間外れなどを未然に防ぐことができると考えます。

(2) クラス遊びを充実させる

現状としてクラスでも友達関係が固定されつつあります。人間関係の広がりが少ないことがいじめなどの原因にもなると考えます。そこでクラス遊びの充実を提案します。具体的には次のような内容です。

- ・クラス遊びを週に1回は必ず行う。
 - ・体育館開放を行ったり、自由に使える遊びの用具を増やす。
- こうすることで、仲良しの友達との仲が深まるだけでなく、いろいろな人とのかかわりが増え、自然と仲間意識が高まっていくと考えます。

3 まとめ

このように、クラスの仲間との絆を深めていくことは、未然にいじめを防ぐことにもつながります。もし何かあった時も、一人で悩まず友達に相談できます。いじめゼロを目指して仲良く助け合える、西小を目指していきませんか。

安全にタブレットが使える、西小へ！！

1 きっかけ

校内で「タブレットを使って学習には関係ないゲームやYouTubeを調べてやっている人がいる」という声があった。今まであまり気にしなかったが確かにそうだと思った。タブレットが手元にあると遊んでしまい、特に上級生が、ゲームをして、周囲の人にめいわくをかけている。そこで、課題を解決するために2つのことを提案する。

2 提案

(1) タブレットの点検をする

現状として、人の写真を撮影し、それを様々な書式に貼ってみたり、グループ活動の際に単独で違うことを調べたりして周囲に迷惑をかけている人がいる。そこで、みんなのことを考えて、週1回のタブレットの点検を提案する。朝の会などを使って、動画や写真がないかチェックしたい。

自分たちで点検することで、望ましくない写真や動画を撮影しなくなったり、あった時にはその場で削除をするので、徐々に問題が解決されていくと考える。

(2) タブレットの使い方を見つめる時間を設ける

現状として、授業中などに先生に気付かれないように検索してはいけないものを検索している人がいます。そういう人が周囲にいと、授業に集中しにくくなる。

そこで、毎週月曜日に各クラスでタブレット使い方を見つめ直す時間を作る。自分たちの良かったことや課題を話し合う。

そうすることで、自分たちで自分たちの課題を振り返ったり、班のみんなの意見を聞きながら、タブレットのよりよい使い方について考えることができる。自己中心的な使い方が減ったり、今まで気づけなかった便利な機能にも気づくことができる。

3 まとめ

このように、タブレットの正しい使い方をみんなで学ぶことで、人に迷惑をかける人が減り、タブレットで嫌な思いをする人も減ると考える。タブレットはとても便利な機械だ。有効に使うには、ルールをきちんと守るなど、みんなで協力しないといけない。正しい使い方、みんなで気持ちよくタブレットを使っていこうではありませんか。

みんなが安全に登下校できる西小へ

1 きっかけ

「登下校中の歩き方が悪い地域の方から心配の声がたくさんある！何のための登校班か。ちゃんと、一列で歩きなさい！」と、毎日のように指導を受けている。よく考えてみると、実際に私たちは、安全に気を付けて、登下校していないと思った。上級生にアンケートとってみたところ、多くの人たちが登下校に課題があると答えていた。以上のことから、登下校の問題を解決するために大きく2つのことを提案する。

2 提案

(1) 定期的な登校班会議の実施

現状として、上学年も現状の登下校の仕方に慣れてきてしまっていることや、下学年は上学年を見て育ってきているので、全体的に歩き方が悪くなってしまっている。自治会によって問題点も様々である。そこでみんながしっかり現状を把握して改善していけるように、登校班会議を2～3週間に1回ぐらいのペースで行うことを提案する。問題点を見つめて、自分たちで解決していこうと考えることが必要だ。現状を共有して、それぞれの立場で歩き方を改善していこうとすることが大切だと考える。

(2) 呼びかけの強化

現状では、地域の方々の呼びかけだけでは、全校生徒に呼びかけが届いておらず、地域の方々がいないと、登下校が成り立たない状況だ。そこで、朝の活動の時間の放送や、お昼の放送を活用して、地域の方々の心配の声を全校生徒に届けることや、登下校に関するスローガンを使ってみんなで呼びかけていくことを提案する。そうすることで交通安全への意識が高まり、地域の方々の不安や心配も少しずつ減っていくと思う。そして、みんなが楽しく、安全に、登下校ができるようになると思う。

3 まとめ

こういった取り組みを行うことで、登下校中の歩き方が改善され、栃木県で一番登下校中の歩き方がいい学校になると思う。1つしかない命を大切にすることを心掛け登校班でまとまって歩く意識を持つことで10年後も20年後もずっと交通事故ゼロの西小学校を守っていけるだろう。1人1人が自分と友達の命を守るために登校班でまとまって歩く意識をつけていこうではありませんか。

みんなの物を

大切に出来る学校へ

1 きっかけ

最近公共物の扱いがよくないことがあります。西小の6年生に公共物に関するアンケートを行ったところ、トイレのスリッパの乱れを課題と感じている人が最も多かったです。そこで、その課題を打破するために次の提案をします。

2 提案

2 提案

(1) ポスターを活用した呼びかけの強化

現状として、保健委員会がスリッパのチェックはしているものの、そろえることをタイムリーには誰も呼びかけていません。そこで呼びかけの強化を提案します。具体的には次のような内容です。

- ・スリッパがそろっている写真と乱れている写真。
 - ・スリッパをそろえている人の写真。
 - ・スリッパをそろえたいくなるような詩
- そうすることで、少しずつ、スリッパをはいたり脱いだりするときに1人1人の意識が変わっていくと思います。

3 まとめ

このように、1人1人が次の人のことを考えて、公共物を使うことが大切です。公共物はいろいろありますが、まずはみんなではきものをそろえるということから整えていき、学校全体の雰囲気をよくしていこうではありませんか。

給食の大切さを知り、残食のない西小へ！

1 きっかけ

大平西小学校では、給食の時間に「あと一口運動」で残食が減るように呼び掛けている。しかし、実際は残食が多いことが問題になっている。世界的に見ても食品ロスが問題になっていて、SDGSの目標にも掲げられている。そこでまずは自分たちの学校から食品ロスを減らしていきたいと考え、次の2つを提案する。

2 提案

(1) 給食キャラクターを活用しての呼びかけ

現状として、呼びかけをしたり量を調整して配膳したりしていても残食がなかなか減らない。そこで給食キャラクターを作り、呼びかけをした。具体的には6年生が全校生にアンケートをとって、意見を聞いたうえでキャラクターを決める。そのキャラクターを活用して、給食だよりや紙芝居でみんながわかるように食べ物を残さないように呼び掛ける。そうすることで、一人一人の意識が変わり、みんなの残食が減ると考える。

(2) お楽しみ給食の実施

現状として、コロナで無言給食が続いており食事を楽しめていない。以前までは、グループで食べたり、学期の終わりには、みんなで丸くなって給食を食べたり、年に1回は仲良し班（縦割り班）で集まって校庭で食べることもあった。今は前向き無言の黙食だ。そこで、黙食だとしても、感染症対策をきちんととって、お楽しみ給食を実施することを提案する。西小にはランチルームがあるので、そこに誕生日ごとに集まったり、クラスや学年ごとに集まったりして食べるのもよいと思う。そうすることで、食べることへの楽しみも増え残食が減ると考える。

3 まとめ

このように、楽しいイベントやキャラクターを通して食べることへの関心を高めることで、給食の時間が楽しみになったり、残食を減らすことにも意識が向くだろう。世界的な問題にもなっている食品ロス。まずは給食の時間から見直していこうではありませんか。